



(桜井・吉野山)

東の土壇は九七年の第一次  
二つの土壇が残っていたが  
調査により、東西三七m南  
北約二八mという巨大な基  
壇であり、南面する金堂跡  
と判断した。西の土壇は翌

- |            |           |
|------------|-----------|
| 所在地        | 奈良県桜井市    |
| 調査期間       | 第三次調査     |
| 発掘機関       | 奈良国立博物館   |
| 調査担当者      | 代表 甲斐     |
| 遺跡の種類      | 寺院跡       |
| 遺跡の年代      | 七世紀       |
| 遺跡及び木簡出土遺物 | 溜池「吉備池廃寺」 |

工事に伴う一九九七年の調査によつて発見された、七

世紀中頃の寺院跡である。

二つの土壇が残っていたが

東の土壇は九七年の第一次  
調査により、東西三七m 南

北約一八mという巨大な基

壇であり、南面する金堂跡

と判断した。西の土壇は翌

奈良・吉備池廃寺

年の第二次調査で、一辺三〇m近い方形の基壇となり、その中央部に巨大な礎石抜き取り穴を確認したことなどから、これを塔跡と考えた。出土した軒瓦の年代と基壇規模および想定される伽藍の巨大さなどから、この寺院跡は舒明天皇が発願し六三九年から造営が始まったという「百濟大寺」の可能性が高いと判断した。

またという「百濟大寺」の可能性が高いと判断した。

今回の第三回講話は、第一回の第二回講話と並んで、西面回廊の検出を目的として実施した。発掘面積は七

一一〇  $m^2$  である。

調査の結果、塔跡の南約五六mのところで基壇幅五・六mの南面回廊を検出したが、それは伽藍中軸線を越えて一直線に伸び、そこに中門は開かないことが明らかとなつた。西面回廊は残りが悪いもの、その東雨落溝とみられる溝を検出したので、塔心より約四〇m西の位置を回廊が通つていたと推定する。木簡は、西面回廊の西にある東西方向の溝から一点出土した。同溝は幅約一m深さ〇・二mの素掘り溝で、藤原京期の須恵器などが伴出した。

8 木簡の釈文・内容

(1)

9

奈良國立文化財研究所年報一九九九—  
（寺崎保広）

（寺崎保広）

(135) × 19 × 4 019